

## (6) 北 陸



北陸地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はこのところおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

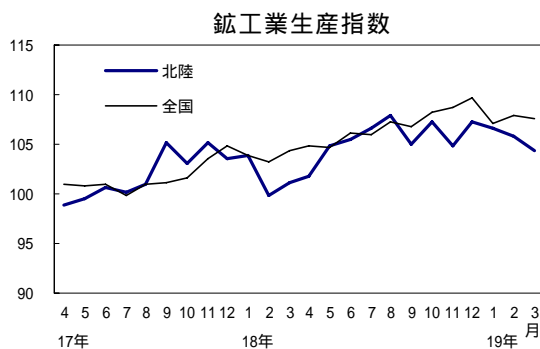
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 19 年 2 月)	今回 (平成 19 年 5 月)	
個人消費	緩やかに回復	このところおおむね横ばい	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

一般機械は、土木建設機械が海外における資源開発・インフラ整備等のおう盛な需要を背景に輸出が好調だったことから、前期の反動があったものの、高水準で推移している。電子部品・デバイスは、半導体素子・集積回路が薄型テレビなどのデジタル家電や、携帯電話向けに好調だったことから堅調に推移している。化学は、医薬品がOEM（相手先商標生産）の受注増や後発医薬品の生産増などに伴い堅調に推移している。繊維は、衣料品が原材料高騰や安価な中国製品等との競合により、振るわなかったものの、スポーツ素材向けや、非衣料品が自動車内装材向けに堅調に推移したことからおおむね横ばいとなっている。金属製品は、アルミサッシがマンション向けで伸びているものの、住宅向けが不調だったことから、全体として減少している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成19年3月の北陸は速報値。

#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期		
一般機械	14.8	6.2	5.2	-	-	-	-
電子部品・デバイス	13.8	0.8	0.6	-	-	-	-
化学	12.7	0.5	0.2	-	-	-	-
繊維	12.4	0.8	0.3	-	-	-	-
金属製品	10.6	0.2	3.8	-	-	-	-
鉱工業	100.0	0.1	0.8	-	-	-	-

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

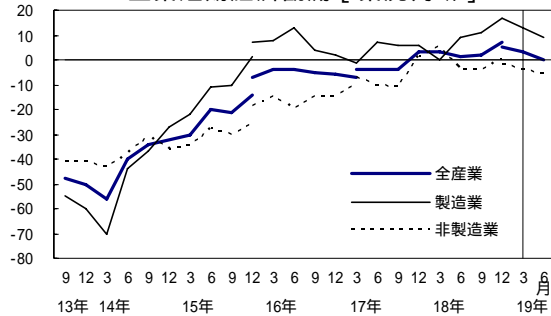
2. 1~3月期は速報値。

3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

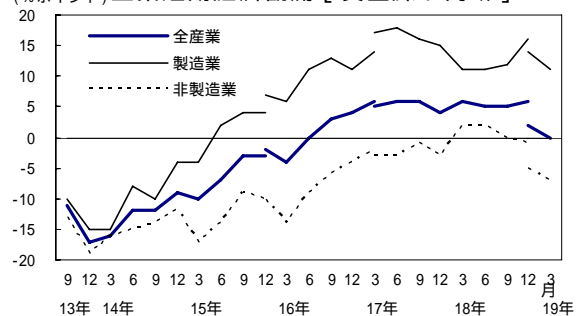
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」とが同数となっている。

#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



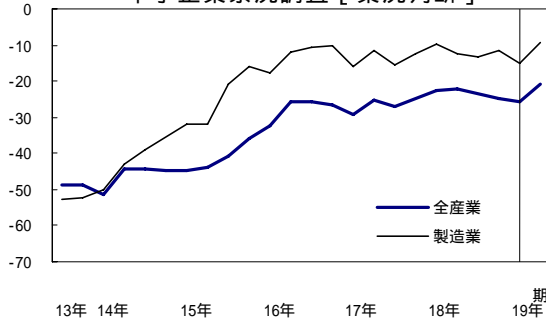
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年6月は予測。

15年12月・17年3月および18年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月・17年3月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

中部地区。

#### 景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「3月工期の工事を終えたことに加え、新年度の始まりの月ということで、公共事業の発注がなく、民間工事を探して細々と食いつないでいる。例年以上に仕事がないという感じである(建設業)」など、「変わらない」とする回答が多く見られた一方で、「能登半島地震の影響のほか、季節感がはっきりしないことから、季節商材の動きが鈍いため、荷量が減少している(輸送業)」など、「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(3) 18年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

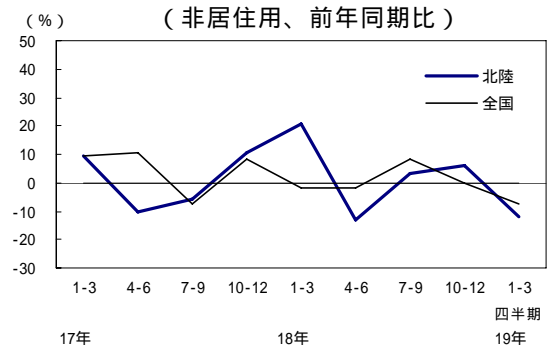
企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	18年度実績見込み	19年度計画
全産業	22.9( 0.2)	1.8
製造業	28.7( 1.4)	4.3
非製造業	12.5( 3.7)	3.3

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費はこのところおおむね横ばいとなっている。

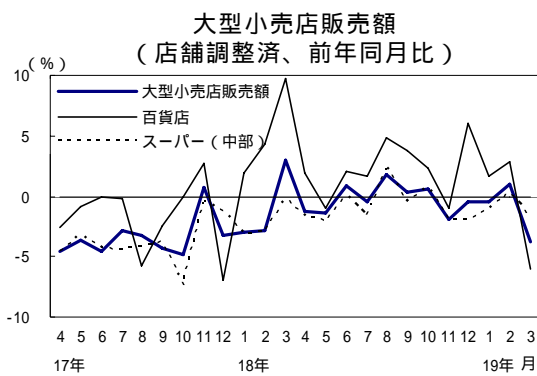
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、暖冬により春物衣料の出足が好調で、飲食料品も果物の値上がり等により増加したことから、前年を上回った。2月は、春物衣料や飲食料品に加え、家具の販売も好調だったことから前年を上回った。3月は、気温低下から春物衣料が振るわなかったことに加え、前年の閉店セール効果による反動や能登半島地震の影響で一時的に来店客が減少したこともあって、前年を下回った。

スーパーは、衣料品に加え、主力の飲食料品も不調だったため、全体で見ても、期間を通して前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「月の前半は天候が悪く、客足は今一つであったが、中旬から後半にかけて好天に恵まれ、ゴールデンウィーク前半は来客数、客単価とも大きく伸長した。月を通して見ると、来客数は前年比103%、客単価は同97%で、全体としてはほぼ前年並みに推移した(コンビニ)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比、%)

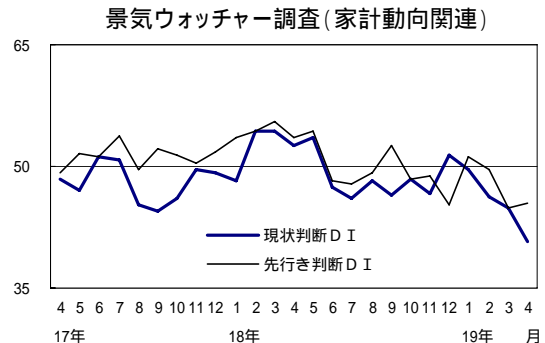
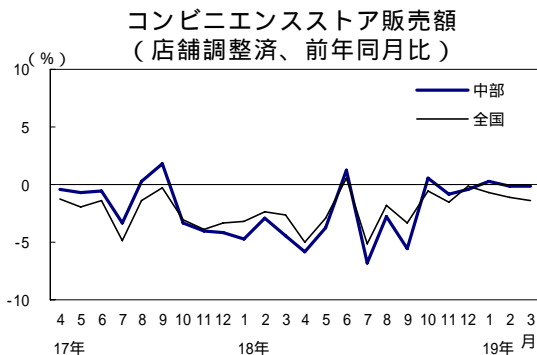
	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月
大型小売店	0.6	0.5	0.6	1.1
百貨店	0.9	3.2	2.7	0.8
スーパー	1.2	0.1	1.1	0.8
コンビニ	2.8	5.1	0.2	0.0
景気ウォッチャー	51.2	46.9	48.9	46.9

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

百貨店は日本銀行金沢支店調べ。

スーパー、コンビニは中部地区。

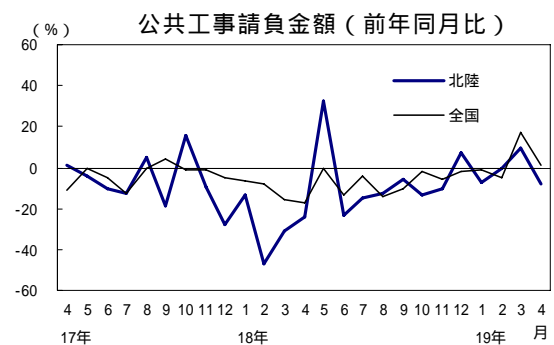
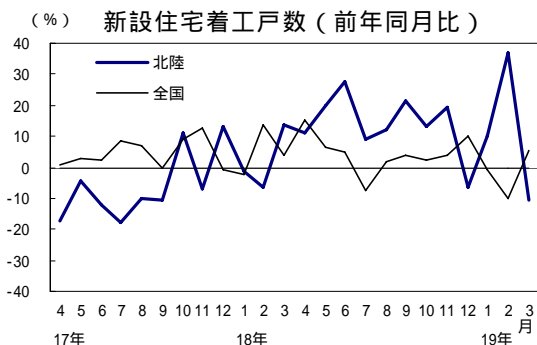
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家、給与、分譲が前年を下回ったものの、貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

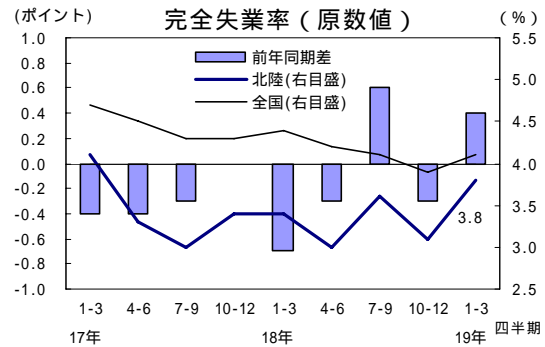
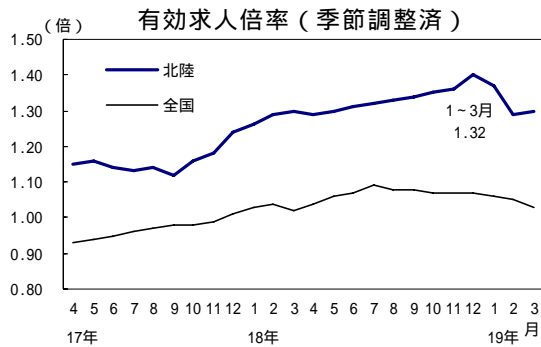


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

「新卒雇用等で企業の要員が補充されたこともあり、紹介や派遣の依頼数は低調である。また、求人側との職種の不マッチも続いている（民間職業紹介機関）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

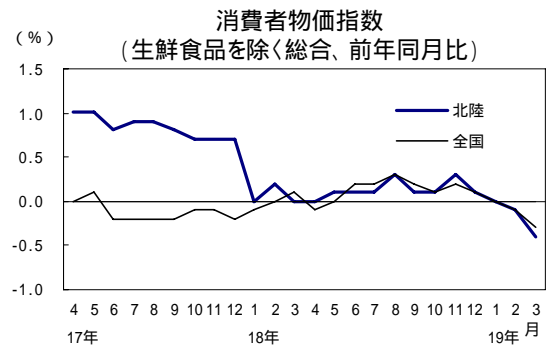
(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

4月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	18年4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	19年4月
倒産件数	105	73	74	77	41
（前年比）	101.9	1.4	3.9	4.1	17.1
負債総額	264	182	315	180	160
（前年比）	108.7	11.3	106.6	12.0	132.6



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・4月から携帯電話の大幅値引のキャンペーンを行っているため、前月に買いとどまっていた客の来店により、機種変更が大幅に増加した（通信会社）

<先行き>

・好調な企業業績に後押しされ、需要の拡大が見込まれる。初夏商品の予約状況も好調である。全国に発信される「元気で、能登」の影響で、地元も活性化する（旅行代理店）

景気ウォッチャー調査（合計）

